2020～2021 年　産科部門統計

産科部門長　**成瀬勝彦**

ご挨拶

2022 年 4 月より産科部門長を拝命しました産科婦人科学教室主任教授（産科担当）の成瀬です。前職の奈良県立医科大学附属病院でも総合周産期母子医療センターの運営にあたってまいりました。栃木県でもその経験を活かし、県民のみなさまの安心で安全なお産に携わっていけるよう努力してまいります。

着任後は COVID-19 まん延の影響を引き続き受ける中で、産科部門としては 6 床の MFICU を含めこれまでの体制を維持しております。院内各科（とくに新生児科、救急科、麻酔科など）や県内各センターとの連携も引き続き良好で、特にもう一つの総合周産期母子医療センターである自治医大附属病院とは密接な連携を行っております。

また 2016 年に設置された臨床遺伝診療室につき、成瀬が 2 代目の室長に就任して、鈴村新生児部門長（臨床遺伝指導医）の指導をうけながら出生前診断についてはいわゆる母体血を用いた出生前遺伝学的検査（NIPT）の新基準における基幹病院として認定を受け、さらに済生会宇都宮病院（宇都宮市）と秋葉産婦人科（茨城県古河市）を連携施設として認定し、地域に貢献しております。

外来については火曜日・木曜日に産科部門の初診を受け付けております。ハイリスク妊娠外来、遺伝外来についてもこれまでどおり運営しております。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

1. 診療実績

	2020 年	2021 年
分娩数	515（バースセンター31）	497（バースセンター31）
単胎	473	447
多胎	42	50
帝王切開術	210（緊急 90、予定 120）	225（緊急 108、予定 117）
帝王切開率	40.7%	45.2%
吸引分娩	10	7
鉗子分娩	5	2
頸管縫縮術	10	13

子宮内容除去術	6	MVA 5	4	全例 MVA
異所性妊娠手術	5	腹腔鏡 2	11	全例腹腔鏡

分娩数は全国的・全県的に減少傾向にあり、当院でも減少しています。一方で帝王切開数は増加し、帝王切開率が上昇しました。MVA（手動吸引法）、腹腔鏡といった女性に優しい治療法を取り入れています。

2. 分娩週数

	2020 年		2021 年	
分娩週数	出産児数	死産数	出産児数	死産数
22	4	0	2	0
23	3	0	4	1
24	2	0	4	0
25	7	2	2	0
26	2	0	5	1
27	8	0	5	1
28	6	0	1	0
29	5	0	5	0
30	2	0	15	0
31	6	0	5	0
32	7	0	12	1
33	9	1	6	0
34	11	0	17	2
35	16	0	23	3
36	35	0	41	1
37	123	0	92	1
38	107	0	98	0
39	103	1	75	0
40	77	0	57	0
41	31	0	27	0
42	0	0	0	0
合計	564	4	496	11

分娩数の減少にもかかわらず、在胎 28～32 週の早産分娩は増加しており、それ以前の早産も減少していません。ハイリスク妊娠・分娩の比率が上昇しているものと考え

られます。

3. 出生児体重

	2020 年	2021 年
出生体重（g）	児数	児数
500 未満	7	7
500-1,000 未満	21	14
1,000-1500 未満	19	27
1,500-2,000 未満	43	35
2,000-2,500 未満	90	107
2,500-3,000 未満	181	158
3,000-3,500 未満	158	113
3,500-4,000 未満	39	29
4,000-4,500 未満	6	6
4,500-	0	0
合計	564	496

（22 週以降）

こちらも分娩数の減少にもかかわらず、低出生体重児数は横ばいです。

4. 母体搬送・紹介

	2020 年	2021 年
緊急母体搬送・紹介受け入れ数	100	105
救急車による搬送	82（産後 13）	84（産後 15）
外来紹介からの入院	18	21
お断り症例数	23	24
緊急母体搬送・紹介数受け入れ率	81%	81%

母体搬送の受け入れ数については変化がありません。お断りの理由については手術室不可、他患者対応中が主で、病棟満床のためがその後に続きますが、新生児科が理由のお断りはほぼありません。

5. 母体搬送元

	２０２０	２０２１
栃木県	８１	９５
茨城県	２	３
群馬県	０	１
埼玉県	０	２
その他	０	０

栃木県内からの搬送がほとんどですが、隣県からの搬送もお受けしています。また、他県から応需した地域周産期センターが対応できず当院に依頼する例もあり、実際には他県在住の妊婦はもっと多いと考えられます。

6. 教育活動

COVID-19 まん延以前は、当部門は全国的にも積極的な教育活動で知られており、J-CIMELS（日本母体救命システム普及協議会：自治医科大学と連携）、NCPR（新生児蘇生法：新生児科と連携）、ALSO/BLSO（Advanced / Basic Life Support in Obstetrics：NPO 法人周生期医療機構）のコースを開催してきましたが、2020 年から 2021 年にかけては COVID まん延下でのコース運営方法が確立していなかったことや、各医療者の多忙により、十分な活動ができていません。

なお、2022 年度に入ってからは、十分な感染対策のもと、J-CIMELS および NCPR コースの開催を再開しています。また多田和美産科医長（学内講師）と成瀬は共に ALSO インストラクターであり、今後のコース運営に向けてインストラクター資格の維持と Web コースでの講師活動を既に再開しています。